

元気で暮らそう 家族の健康

熱性けいれん



ひるま小児科クリニック
院長 比留間 藤昭

朝霞市根岸台7-4-10
TEL/466-0320

診療予約TEL/466-0215

■熱性けいれんとは

風邪等にかかって、熱が上がった時に起こるのが特徴です。生後六ヶ月から約五歳までの間に起こりやすく、約六〜八%の子どもに起こります。起こりやすい体質というものがあ、その体質は二十人の子どものうち一人は持っているもので、三十〜五十%が両親、兄弟などでも熱性けいれんを起こした事があると言われていいます。

■症状

乳幼児の発熱に伴う突発的な全身性けいれんで次のような特徴を持っています。

- ①体を突っ張らせる。
- ②意識がなくなる。(呼んでも反応しない。)
- ③手足をピクピクと左右対称に震わせる。
- ④眼球が上を向いて白目になる。
- ⑤①から④までのけいれん症状の続く時間は、初めて起こしたときは長く感じるようですが、普通一〜三分くらいのもので、長くても五〜十分程度です。
- ⑥けいれん発作が治まった後、二十分位で呼びかけに対する反応が戻り、意識障害やまひ(手足が動かない)を認めない。

■家庭でひきつけを起こしたらどうするか？

- ◆慌てない。ひきつけは、数分間で止まります。
- ◆何もしない。口の中に指やはしを入れないこと。
- ◆楽な姿勢に。体を横に寝かせて、服をゆるめてください。ピンなど危ない物は取り外します。
- ◆吐いたら注意を。吐きそうなしぐさしたら、体を横にして吐いたものがのどにつまらないようにします。

治療については、必要があれば抗けいれん薬(けいれん止め)の座薬、注射を使用します。また、熱性けいれんを起こした事のある子どもの発熱時(三十八度位)には抗けいれん薬を使用するように指導します。抗けいれん薬を予防的に使用していても、発作を起こすこともあります。